

# 災害派遣・復興支援スタートする

## 清掃本部に震災支援対策本部を設置



東京清掃労働組合  
千代田区飯田橋3-9-3  
TEL (3237) 9995  
1部20円

編集責任者 明浩  
教宣部長 坂本

わが組合の綱領

- 一、われわれは健全なる自主的組織を確立し、生活諸条件を確保し、社会的地位の向上を期す。
- 二、われわれは労働の社会的意義を顕揚し、都区政の徹底的民主化を期す。
- 三、われわれは労働者階級の解放と民主主義日本を建設し、世界平和に貢献せんことを期す。



3月30日 自治労仙台市職労環境支部の仲間を激励する西川委員長、山崎組織部長(手前)



4月17日区政会館での第1次支援隊出発式で挨拶する西川本部執行委員長

東日本大震災の発生以降、わが組合は仙台環境支部に常時連絡を取りながら、また3月29日～30日の仙台に調査団を派遣し、復興に向け派遣を強く求めました。4月5日に支部代表者会議を召集し、現状報告とわが組合としての意思統一を行ってきました。一方政府からの支援要請を受け東京都、特別区、市町職で支援協議会を設置し行政側の支援も動きだしました。そうしたなか、4月7日に特別区長会が4月17日から5月7日までの3週間「仙台市災害復興ごみ支援」を決めました。第一派遣隊は東京都(市町職、民間会社含め)全体で30台、うち特別区16区で小ブ14台のごみ収集車(運転職員14人、収集職員34人、管理部門職員8人、総数56人)の派遣することになりました。現時点では3次までの業務を行ないます。わが組

**主な日程**

5月1日(日)  
日比谷メーデー  
9時開会

5月6日(金)  
中央委員会  
17時30分より

**被災地住民の生活を守り、仲間を支援しよう!**

3月11日に発生した東日本大震災は死者・行方不明者が2万を超える戦後最大の甚大な被害をもたらしました。発生から数日後に、廃棄物処理が困難を極めている状況が都市清掃労働組合傘下の自治労仙台市職労仙台環境支部よりわが組合に報告されました。わが組合として西川委員長を本部長とする震災支援対策本部を設置し対応することとなりました。強い余震が続く中、また福島第一原発の放射能汚染等極めて困難な状況ですが、わが組合は被災地の復興に向け全力で取り組んでいきます。



4月17日 第1次支援隊の奮闘を祈り見送る

また自治労本部からも復興支援ボランティアが各県本部に要請があり、4月10日から6月5日までの8週間の日程で全国から毎週275人延べ2,200人を派遣し、東京都本部は毎週15人が、うちわが組合は毎週2人派遣することとなりました。東京都本部の支援先は福島県相馬市、新地町で行政支援、避難所運営・物資仕分け等、また医療支援(保健師・看護師)の業務を行ないます。わが組

# 自治労震災復興支援活動報告

自治労の震災復興支援第一陣報告を掲載します。なお教宣部から避難所の雰囲気や写真をお願いましたが、報告者から避難される方々の気持ち考えると、とても写真を撮れるような状況になく、掲載した写真が唯一の避難所の写真です。

第一陣参加者(吉田、張替)

4月10日～17日の7泊8日、経過し被害状況が未だ不透りしてしまいました。そして日(日程)で自治労の東日本大震災派遣支援活動の第一陣として福島県の新地町への参加してきました。私たちの役割は、避難所の被災者や現地で苦闘する自治労組合員(自治体職員)を24時間1サイクルで交代しながらサポートすることです。

## すさまじい光景

尚英中学校避難所は、限られた物の中から共同で食事を作り、おにぎりを握る



ボランティアで来たプロのチェロ奏者の演奏を聞く避難された方々

被災された方の話を聞くと大変いたたまれない話ばかりでした。津波で家族を亡くされた方、原発によってやむを得ず避難している方、そして町職員の瓦礫の中の搜索活動の話などここでは書ききれないほどです。そうした中、実際に見た被災地の光景はメディアなどで見るのとは違い息を呑むほどで、想像を絶する「すさまじい」の一言でした。そこでは人間の力を持つては、到底不可能と思われることが起こっていました。電車が折れ曲がり、全てを流し尽くされた瓦礫だらけの田畑。地震とそれに続く大津波そして、原発への目に見えない恐怖を抱えていました。天災ならまだ何とか納得されることが出来るかもしれませんが、原発問題においては、怒り

や割り切れない何かもやもやした物があると思います。こうした被災された方々の心中を考えると胸が痛みました。

支援活動初日に福島県を中心とした震度6弱の大きな地震が発生し、その後も1時間に十数回も立て続けに起こり津波警報・注意報が鳴り響きました。私の居た避難所は高台にあることから普通に生活されている町民の方々が続々と車などで避難をしてきて、小さい子供は泣いているというパニック状態、緊張感が続く状況でした。被災者が受けたような地震・津波そして原発への不安や恐怖を改めて実感しました。

## 避難所を支える自治体の仲間

駒ヶ嶺公民館避難所は、新地町の南端に位置しているため、他の避難所と違い原発から避難してきている南相馬市の方が避難してました。

震災から1ヶ月が経過しましたが、当初は200人ぐらいが避難していたという事です。水が使用できなくなりトイレが流せない



壊滅的な被害の福島県相馬市

## 復興に向けて支援を

ある職員は、「福島からボランティアが少なくなっているのに、休む間もなく業務に集中しています。町役場の職員は自分の被災対策は後回しに追いやり、その上に被災者から不満をぶつけられる等、5重の被害にあっているといつも過言でないと感じました。やっと父親の遺体が

見つかったという役場の職員もいましたが、休む間もなく復興のために奮闘していました。

ある職員は、「福島からボランティアが少なくなっているのに、休む間もなく業務に集中しています。町役場の職員は自分の被災対策は後回しに追いやり、その上に被災者から不満をぶつけられる等、5重の被害にあっているといつも過言でないと感じました。やっと父親の遺体が

## 青年部主催

# 新入組合員歓迎学習会・メーデー学習会開催される



新入組合員歓迎学習会・メーデー学習会が4月22日開催されました。今年4月に新宿区、目黒区、世田谷区の3区で12人名の業務職の仲間が清掃職場に、新規採用されました。当日新入組合員を含め青年部の仲間等40名の結集を得て、歓迎学習会と併せてメーデー学習会を行なってきました。まず吉田本部副委員長から「今回の大震災や平和の問題、非正規の雇用の問題」等労働組合の社会的な役割やまた「役員任せにせず、組合員1人ひとりが運動作っていくのが大切なこと」等、組合・職場の活性化に向けた講演がありました。引き続き長妻青年部長より「メーデーに結集する意義と課題」の講演があり、青年部としてのメーデーの取組みの報告がありました。学習会の後で懇親会を行い、参加者全員での自己紹介を行いながら、楽しいひと時を過ごしました。